国民年金

公的年金は社会全体で高齢者の生活を支える制度です

貯蓄、仕送りでは難しい老後の生活

若い皆さんは「年金はお年寄りのためのもの」と考えがちではないでしょうか。また、年金制度は不要なものなのでしょうか。

かつての日本は、家族で高齢者の暮らしを支えるのが一般的であり、また、私的な貯蓄等によって老後の生活を送ることができました。

しかしながら、貯蓄には弱点があります。自分の寿命は誰も予想することができませんし、そのために本来必要十分な貯蓄額を事前に知ることはできません。また、若い頃から寿命を全うするまでには、何十年という長い時間があり、予想を超えるインフレにより貯蓄の目減りなどが生じる可能性があります。また、貯蓄することが難しい場合もあります。

子どもによるいわゆる仕送りに頼ることも難しくなっています。すべての人が子どもから仕送りを受けられるわけではありませんし、また、子ども自身の経済状況によっても必ず受けられるものではありません。

日本社会の構造変化、特に第1次産業で働く人の激減、核家族化と少子化の進行、サラリーマン世帯の増大等により、遠く離れた家族が私的な扶養に頼ることはさらに難しくなっています。

社会全体で支える経済変動にも強い

平均寿命が大幅に伸び、老後生活が長期化したことも、私的な扶養や貯蓄によって、老後生活を送ることを困難にしています。

公的年金は、現役世代の保険料負担で高齢者世代を支えるという世代間扶養の仕組みを基本として運営されています。これは、一人ひとりで私的に行っていた老親の扶養や仕送りを、社会全体の仕組みでカバーするものです。現役世代が全員ルールにしたがって保険料を納付し、そのときの高齢者全体を支える仕組みは、私的な扶養の不安定性などのトラブルを回避するメリットがあります。

また、年金を受ける頃の将来の経済状況がどうなっているか予測がつかない中で、公的年金は、基本的に物価の変動に応じて支給額が変動する仕組みとなっており、将来の経済変動にも十分に堪えられるものとなっています。それによって実質的価値を維持した年金を一生涯にわたって保障するものであることから、安定的な老後の所得保障を可能にしているのです。

若い世代にとっても重要な役割を果たす

年金は、高齢者世代にとってはもちろんのこと、若い世代にとっても、自分の親の私的な扶養や自分自身の老後の心配を取り除く役割を果たしています。年金は、個人個人の自立を高め、社会の発展、安定に貢献している側面があります。

このように、年金は、国民の生活、経済からみて不可欠かつ重要な存在となっているといえます。国民年金に加入し、保険料を納付しましょう。

仙北市の医療費（6月診療分）

●国　保

世帯数	５，４３２戸
被保険者数	１０，４０４人
総医療費	１７，７３４万４千円
１人あたり医療費	１７，０４６円

●福祉医療

受給者	３，２７４人
個人負担への助成額	１，５７５万１千円
１人あたり助成額	４，８１１円

●後期高齢者医療被保険者数

８月１日現在	５，４９８人